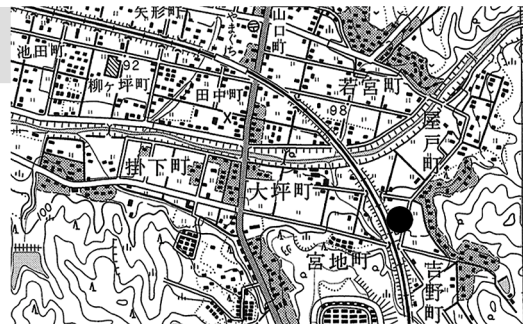


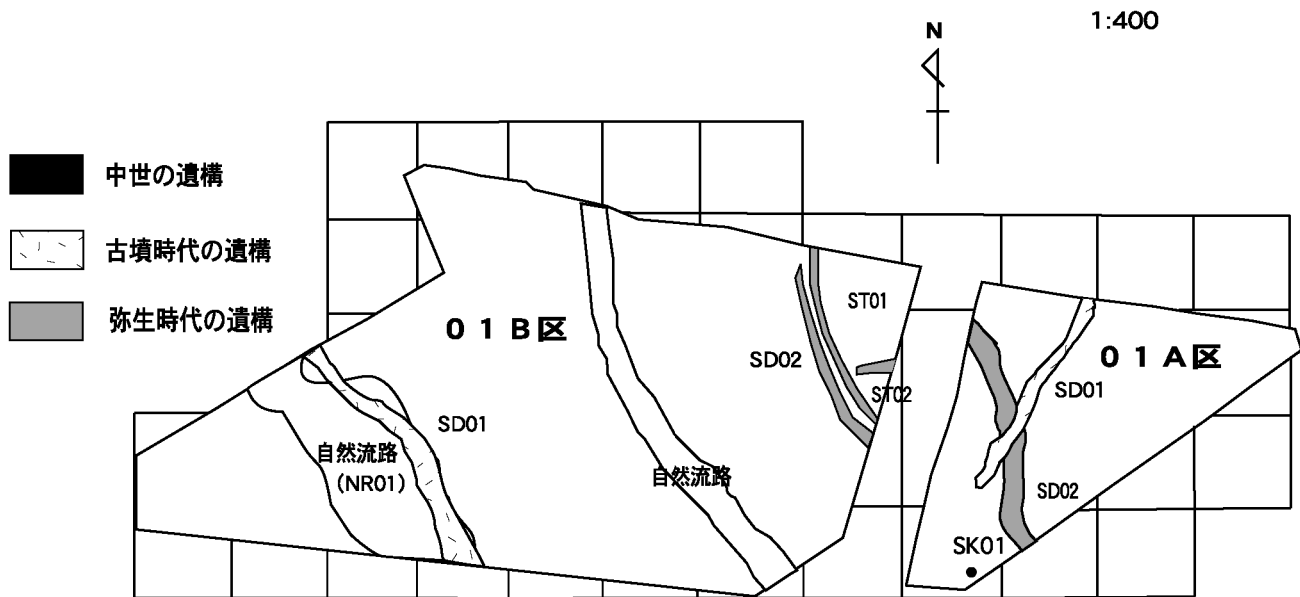
よしの 吉野遺跡

所在地 瀬戸市吉野町地内
調査理由 瀬戸環状線建設
調査期間 平成 13 年 11 月～ 12 月
調査面積 890 m²
担当者 服部信博・宇佐見 守・藤岡幹根



調査地点 (1/2.5 万「瀬戸」)

- 調査の経過** 調査は瀬戸環状線建設に先立ち、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受け、昨年度から実施している。昨年度の調査では、上面から近・現代の溝 4 条と中世の溝 1 条、下面から古墳時代初頭の柵（しがらみ）状遺構を伴う自然流路 1 条を検出した。
- 立地と環境** 遺跡は山口川（矢田川）により形成された沖積地である山口谷の南東部、山口川にそそぐ吉田川の右岸に立地する。標高は約 100 m を測る。調査区の約 150 m 南には、弥生時代から古墳時代にかけての土器が出土した吉田遺跡が存在する。
- 調査の概要** 本年度の調査区は昨年度の調査区の北側で、東側の旧田地を A 区、西側の旧宅地を B 区として実施した。
- 弥生時代中期以前** B 区で自然流路を 2 条検出した。西側の流路（NR 01）は 00 区で検出した自然流路から分かれ、東に大きく蛇行して北西に流れる。全長は下流が調査区外に続くため不明であるが、検出長約 10 m、幅約 7.2 m、深さ約 1.2 m を測る。遺構に伴う遺物はないが、条痕文系土器片と石錐が出土した。
- 弥生時代中期** A 区西側から B 区東側にかけてこの時期の可能性のある水田を 2 枚検出した。水田は平行して掘削された 2 条の溝に挟まれ、溝に沿う畦畔 2 本（B 区側の畦畔で幅約 60 cm、高さ約 5 cm）と、B 区側の畦畔に直交する畦畔 1 本（幅約 40 cm、高さ約 2 cm）を確認した。直交する部分には幅約 10 cm の水口が存在する。水田の大きさは 2 枚とも調査区外に続くため不明である。遺物は A 区側の溝（SD 02）の底から櫛描波状文をほどこした壺片が出土した。
- 古墳時代** A・B 区で溝を各 1 条検出した。B 区の溝（SD 01）は NR 01 が埋没した後に掘削された溝で、00 区の柵状遺構と一連の遺構である。つまり、NR 01 が埋没した後、同一場所に SD 01 を掘削し、水流の確保のために柵を築造したと考える。全長は下流が調査区外に続くため不明であるが、検出長約 9 m、幅約 2.6 m、深さ約 90 cm を測る。この時期の遺物の出土はない。
- 中世** A 区で無釉の小椀片が出土した土坑（SK 01）を検出した。直径約 60 cm、深さ約 45 cm を測る。
- まとめ** 弥生時代中期の可能性のある水田や古墳時代の溝など、農業生産に関連する遺構を検出した。しかし、住居跡などは検出されず、遺物も極少量出土したにすぎない。00 区で検出した自然流路からは、この時期の遺物が少なからず出土しており、農業生産に携わった人々の集落は調査地点より南側にあると考える。（宇佐見 守・藤岡幹根）



第1図 吉野遺跡 01区主要遺構略測図



01B区 全景



01A区 全景



01B区 畦畔と溝 (SD02)



01A区 SD01・SD02